

第1回奈良市の地域教育を考える委員会会議録

平成25年7月22日 会議

地域教育課

平成25年度 第1回 奈良市の地域教育を考える委員会 会議録	
開催日時	平成25年7月22日(月) 10時00分～12時00分
開催場所	奈良市庁舎 第21会議室
内 容	<p>○ 開 会</p> <p>1 委員の委嘱</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 会長・副会長の選出</p> <p>5 議事</p> <p>・奈良市地域教育推進事業について</p> <p>①平成24年度アンケート調査の報告</p> <p>②提言と本年度の取組について</p> <p>6 その他</p> <p>○ 閉会</p>
出席者(委員)	<p>岡田龍樹委員 竹村健委員 畑中康宣委員 瀬古口浩之委員</p> <p>南出藤作委員 宮本克子委員 村内俊雄委員 新谷明美委員</p> <p>若江眞紀委員 魚谷和良委員 佐野万里子委員</p>
(担当部局)	<p>中室教育長</p> <p>北学校教育部長 福岡教育総務部長 寺田子ども未来部長</p>
(事務局)	<p>石原教育政策課長 松田地域教育課長(事務局長)</p> <p>梅田学校教育課長 岡崎こども園推進課長</p> <p>地域教育課から7名</p>
開催形態	公開
担 当 課	地域教育課

議 事 お よ び 協 議 内 容

○ 開会

1 委員の委嘱

2 教育長あいさつ

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、奈良市の地域教育を考える委員会委員をお引き受けいただき誠にありがとうございます。日頃より皆様には、奈良市の教育行政にご理解とご協力をいただいておりますことに対して、心から厚くお礼申し上げます。ただ今、岡田先生に委嘱状をお渡しいたしました。委員の皆様この一年、よろしく願いいたします。

本市では、奈良市の教育を進めるために、奈良市教育ビジョンを平成21年に、今後10年を見越して策定いたしました。しかし、速いテンポで世の中が変わってまいりますので、5年ぐらいで見直しが必要になってきます。今年が5年目になりますので、見直しもして課題も入れ込みながら、後半の5年を展望していきたいと考えています。その教育ビジョンの5つの柱の一つである「地域全体で子どもを守り育てる体制づくり」を推進するために、学校・家庭・地域が連携と協働した取組を進めてまいりました。

平成23年度より「奈良市地域教育推進事業」として、「地域で決める学校予算事業」と「放課後子ども教室推進事業」を2つの柱に据え、事業を展開しているところです。

「地域で決める学校予算事業」は、今年度で4年目になります。これまで、地域教育協議会を中心に、中学校区を単位に特色ある取組が実施され、学校・家庭・地域のつながりと絆が深まってきたと感じています。

また、「放課後子ども教室」も昨年度より全ての小学校校区で開設することができました。これにより、子どもたちに安全・安心で、健やかに生活できる居場所が確保され、地域の方々と一緒に学習・交流・体験する機会がますます増えてきています。

さらに、事業を推進する上で大きな役割を担っていただいているコーディネーターも、昨年度の290名あまりから今年度は330から340名ぐらいと大きく増加しています。このコーディネーターの活動をさらに広げていける施策も入れていけたらと考えております。

教育ビジョンの節目になる年に当たり、本年度の委員会では、委員の皆様から奈良市の地域教育推進事業を円滑に進めていくために、様々な立場からきたんなくご意見をいただければと思います。

今後も、学校・家庭・地域の連携・協働した仕組みづくりを推進し、地域の人材や環境を生かした、特色ある教育活動に取り組むとともに、地域の教育力の再生と地域コミュニティの推進を図っていききたいと考えております。

委員の皆様には、今後とも本市の事業にご協力を賜りますようお願いいたしまして、あいさつとさせていただきます。

3 委員自己紹介 および 担当部局・事務局紹介

4 会長・副会長の選出 ※会長には岡田委員が、副会長には佐野委員が選出される。

○会長あいさつ

ただいま会長に推挙いただいた岡田です。よろしくお願いたします。奈良市では早くから地域で教育を支える仕組み作りに先進的に取り組み、成果もどんどん出てきている。また、一方先進的であるがゆえの新しい課題もどんどん出てきている。これらの課題を解決しながら、教育ビジョンにもある、地域で子どもを育てる体制を作っていきたい。それには、大人がきちんと学んで子どもを支える、大人が学んだことを地域に還元し、大人が学ぶことによって子どもがよりよく育っていくよう、この委員会を通して、力を尽くしていきたい。

○副会長あいさつ

昨年に引き続き副会長ということでご指名を受けました。微力ながら、公民館代表としても、力を注いでいきたいと考えています。どうかよろしくお願いたします。

5 議事

- ・ 奈良市地域教育推進事業について

岡田会長 本委員会は、運営要領により公開とさせていただきます。また、会議録を作成するため、録音と写真撮影を行いますことをご了承ください。本日の会議録の署名は、委員の氏名の50音順で、魚谷委員と佐野委員にお願いします。本日の会議の傍聴希望はございましたか。

事務局 傍聴希望はございませんでした。

岡田会長 では、議事に入らせていただきます。案件の「奈良市地域教育推進事業について」の、「平成24年度アンケート調査の報告について」の説明を事務局よりお願いします。

事務局 (資料2を使って事務局説明。)

岡田会長 ありがとうございます。毎年事業が終わる2月ごろアンケート調査が実施されています。説明があった部分、また、それ以外のことでも結構ですので、アンケートから見えること、感じられることについて、ご意見をお願いします。

魚谷委員 質問します。年々いい方向に向かっていることが数字からもうかがえるが、会長・総合コーディネーター共に、事業費を弾力的に運用できないことを課題として挙げている。これは本当はどんなふうに使いたいと思っているのか。

岡田会長 これは、事業が始まった当初から課題として上がっている。公金なのである一定のルールのもとに執行すべきものだ。ある程度事業も浸透してきているので、しぼりがあるのは仕方がないという納得も広がってきている。ただ、納得している部分と、もっとこんなふうに見えるはずだという部分があるようにも思う。

村内委員 公金、税金ですので、簡単に使えるわけがない。かなりの巨額なお金だ。これを弾力的に運用したい、やりづらいというのは、これは運営する方の認識が甘い。事業に対するお金なので、事業計画をしっかり練り、それに対するお金だというのは当たり前のことだ。ただ、弾力的運用という意味では、単年度予算だが、事業費が余ったら、次年度に使えるようなことが考えられればいいのだが。

新谷委員 そう思う。事業計画はしっかり立てるのだが、ずれは出てくる。コーディネーターや現場では、きっちりした公金としての使い方でない部分で使いたいという思いはある。

例えば、ボランティアへの謝金の使い方などで、お茶はいいけどジュースはだめなど細かく決まっていることに対する不満はある。

岡田会長 項目ごとに予算は決まっています、流用は何%以内なら可能という決まりはあるのか。
事務局 流用は全体予算の20%以内で可能だ。実施計画内でのある程度の流動性はある。ただし、消耗品への流用は認めていない。事業がメインで、その事業費が足りなくなったときの流用ということだ。

岡田会長 ある目的のためのお金。目的に沿ったお金ということですね。私の大学では、文部科学省から、大きな目的のために使うのならいいという許可をもらって予算を執行したのだが、2年ぐらいしてから、目的達成のためどう役に立っているのか説明せよとの問い合わせがあり、結局は認められず、大学側が返金した、ということがあった。この事業は、枠の中できっちりと執行する事業ということで、後で返すわけにもいかない。もう少し融通感を持っていただけるように、本年度は会計面でのコーディネーター研修も計画されているようだが、お互いに情報交換しながら、より広い視野で運用できるようになりたい。

村内委員 学校支援地域本部事業として始まったときは、執行率が低く、かなりの金額を返金した校区もあったが、今では執行率も90%以上になっている。市の予算になったことでもあるので、もう少し融通がきいてもいいのではないかと、という思いはある。例えば、余った場合は翌年への繰越しもあっていいのでは、など。

岡田会長 事業への要望でいつもたくさん寄せられる意見なのだが、単年度予算なので次年度への繰越しは難しいのではないかと思います。ほかに何かお気付きの点ありませんか。

若江委員 1年ぶりに参加したが、いろんなことが発展してきている、という印象だ。事業費の使い方は、現場にとっては重要なことだ。また、アンケート項目のそれぞれの項目を並列して考えるのではなく、例えば、Aの体験や経験の場が増加と、Kの地域のつながり、が高い効果があがっているが、事業の本来の目的はこれではなく、Dの子どもの自己肯定感・有用感を高め、それをLの地域の教育力の向上につなげていくことが、目的だ。ベースとなる部分で土台ができていると思うので、バラバラな総括ではなく、関連性を整理すべきだ。国や県が重視しているキャリア教育では、B・C・Dあたりが重視されると思うが、そういったアンケート項目の関係性を整理し、今年の課題を明確にし、優先項目を選び、1年間の取組が効果的になるように、示していくことが大切ではないか。

岡田会長 地域の連帯が深まり、コーディネーター同士の連携も深まってきている。それらは、目的のベースになる部分の成果は得られてきている、ということだ。あとは、現実的に子どもたちにどう届いて、子どもたちの成長につながっていくのか、という大きな課題を、どう測定するかだ。そういえば、アンケート項目をどうするかは、前年度の考える委員会で諮っていなかった。どのような聞き方をすれば明確になってくるのか、関連性を持たし、整理すると、取り組んでいる方が、がんばるべきところが見えてくる。去年もそうだが、知名度が上がらない、学校と関係ある人は知っているが、学校に関わりの薄い人の理解がない。地域教育協議会という名称は決まっていることだが、分かりにくいという問題もある。ベースになっている部分は成果が上がっているが、裾野への広がりがまだまだだという課題がある。大人が学習する機会を学校とリンクさせていく、大人が学校へ足を運んでいく取組があってもいいと感じている。裾野を広げながら、子どもの成長につなげ

たい。

村内委員 事業のPRは必要だ。19日の中学校の終業式に出席し、地域教育協議会を知っている人は手を挙げてください、と聞いてもだれも手が挙がらない。協議会主催の行事名をあげると、パラパラと手が挙がる。一昨年独自に調査を実施したが、自治連合会長・学校の先生は、この事業について半分以上知っていたが、保護者で知っているのは3割程度だった。ネーミングをわかりやすくする必要がある。うちの協議会では名前を付けているが、全市的なネーミングを考え、認知してもらうことが必要だ。PRが一番大きな課題となっている。協議会長は、自治会活動をしている自治会関係者が、アンケートした17名の内13名ぐら이다。自治会と連携し、教育協議会と関わってもらう必要がある。今のままで、自分たちで空回りしてしまい、特定の人の負担だけが増えるということになりかねない。地域教育協議会の運営はだれがやっているか、と聞くと、実質的には校長教頭がやっていると答える地域も多い。一部の人の負担だけになっていて、地域や教職員全体に広がっていかない場合もある。

岡田会長 知名度はあっても、協力してもらえとは限らない。例えば、PTAという名称はみんな知っているが、PTA活動にどの保護者も協力的なわけではない。活動すると面白いぞ、という形で名前が売れていかないと協力は得られない。負担感を感じさせるだけだと広がっていかない。学校への敷居が高かった人が、気軽に学校へ足を運べるようになることが大事だ。生活習慣の改善等は、家庭の問題と直結していることだが、やや効果が見えにくいようだ。何かやっていてやりがいが見えてきて、成果も出てきている、可能性が見えてきているという実感が大切だ。子どもがこれだけ成長しましたというのが見えてくると、やりがいが出てくる。

竹村委員 かなり進んできているとは思いますが、一部にとどまっており、だいぶしんどそうだという感想を持っている。市の自治連合会では、分科会を持ってきたが、校区によって温度差が有り、統一できない。本年度は、「教育」という大きなくくりで一本にしようと考えている。すでに1回目の分科会も終わっているが、教育とまちづくりに関して、定例会の中で意見交換をしていくつもりだ。1年間やって来てみて、学校によって全然違う、とらえ方も広がりもまちまちで、なかなか難しい。結果として深く進んでいくということにはならない。本年度は方向を変えて、教育という大きな問題で考えていく。

岡田会長 連合会の成果も期待しております。今年度はアンケートの仕方も、国や県とも関連させつつ、さらに踏み込んで、市独自で、子どもの成長に関連付ける方向で、考えていきたい。こんなこと聞いておけばという意見はないか。ヒントになることでも結構だ。アンケート対象も含めてアイデアをいただきたい。

新谷委員 私はコーディネーターとして4年になるが、4年前にコーディネーター研修を初めて受けた研修の内容を、自分自身の基本としている。今年度のコーディネーター研修は、対象を広げ、学校関係者や、地域関係者にも呼びかけている。前回の特別支援教育関連の研修には多くの方々が参加したし、次回の会計関係の研修には教頭等学校関係者にも呼びかけるなど、前進している印象を持つ。コーディネーターの人数も330名から340名ということで、今年度初めてコーディネーターになられた方もおられれば、5～6年やっておられる方もいる。アンケート項目に毎回どういう研修が必要かという項目があり、集約

はしておられると思うが、コーディネーター研修としてひとくくりにして、今の形態で続けていくには難しさがあると感じている。長くコーディネーターをしているしていないにかかわらず、うまく展開しているところ、足踏みしているところ、いろいろな実態がある。長くやっているコーディネーターは、市全体を見る時期に来ているのではないかと。自分たちの校区がうまくいっているからそれでいいではなく、他の校区全体を見て、お手伝いしたり、取組を広めたりと、何とかして応援していけないか。コーディネーター同士の連携も深まり、地域がいくつかよって自発的に集まりを持ったりしている。自発的にやっていることを、制度的にはっきりさせ、行政とも連携をとり、経験コーディネーターの集まりとして、コーディネーター研修に意見を反映したり、困っている協議会を応援したりしていくことはできないか。そういう体制の組織づくりをできないか、全体で検討していただくと、新しい奈良市の形ができてくるのではないかと。

岡田会長 奈良市が発展的に来ているのは、コーディネーター研修をきちきちとやってきたからだと思う。実績を積んできた人たちが自主的に学んでいく会を持ち、アンケートもそういった会で案を練っていただく等のこともできるので、効果が上がるのではないかと。考える委員会でもこの会を支援し、育てていくという形で、この会をオーソライズし、組織として、多くの校区の方に声をかけて立ち上げていく。本委員会でも組織として承認しているという形をとり、行政も関わり育てていくのがいいのではないかと。行政が作りますからみなさん集まってくださいでは、また上から新しい組織を作るのかとなるので、グループを中心に会を立ち上げ、行政と連携しながら形あるものにできたらと考える。そういった方向で可能ですね。

事務局 可能です。

岡田会長 年季の入ったと言いますか、経験豊富なコーディネーターが中心になり、市全体を見る目・視点を持っていただき、困っているところを支援する等の活動をしていただく。そういった組織を立ち上げ、承認していく方向でいいかと。

若江委員 コーディネーターの連絡会的なものはあるのか。

新谷委員 教育協議会長と総合コーディネーターの合同会議は、年2回実施している。それだけでも、温度差が有るのが分かる。それを基準で人を集めると、合同会議を小さくしたものになってしまう。

若江委員 秋田や新潟などでは、コーディネーター経験者がスーパーバイザー的な役割を持ち、5つぐらいの地域に分け、コーディネーター頭のような役割を持ち、そのコーディネーター頭の連絡会的なものを2か月に1回程度持っている。たくさん的人数が集まっても大変なので、少人数で現状の情報共有をし、いろいろな手立てを考えている。その際、アンケートにこだわるのですが、地域の教育力の向上と言っても、何を向上させようとしているかが違う。非行を少なくすることなのか、学力向上なのか、学校地域の連携なのか、各校区で教育力の向上のねらいが違う。学校と地域の方の協力によって、その内容・ねらいを明らかにし、内容・ねらいごとに集まりを持って、ノウハウを共有し合う等、もう少し順序立てて、コーディネーター頭の方がコーディネートしやすい情報の管理が必要だ。それがないといつまでも気持ちばかりが焦り、効果が出にくい。内容・ねらいを明らかにするため、地域住民全体に、うちの地域の課題は何だと思いますかと、アンケートをとって

るところもある。アンケートの結果課題はこうだ、だから今年目標としてこういうことを設定する、その目標を達成するためにこんな動きをしている。協力してくださる人いらっしゃいませんか。その結果こんな点で効果があった。という具合に、確実に地元から情報を得て、その情報を共有し、地元の参画を得て活動を共有し、結果を短いタームで返していく、ということを繰り返していくこと。そういう方法が今のところベストな方法だ。今の新谷さんの提案も、単に人を集めるのではなく、もう少し準備をしていけばと考える。

岡田会長 ぜひ進めていきましょう。今動き始めていただいたところをベースにして、私も協力させていただき、行政の支え・バックアップももらいながら進めていきたい。長く当初から関わっている方の力を最大限に生かし、リードしていただききたい。この会でも、新谷さんから報告いただいたりしながら、市全体で支えていきたい。了解いただけたら、そういった形で進めさせていただきたい。大きくなりすぎると、コーディネーター研修と同じ形になるので、人選もお任せしながら、バックアップしていくということで、いかがでしょう。よろしくお願いします。行政の音頭取りで動くのではなく、現場から立ち上げをしていくという動きが大切だと思う。考える委員会としても最大限のバックアップをしていきたい。先生方も優秀なコーディネーター人材を紹介するなどのバックアップをお願いしたい。アンケートの内容も作っていただくことも可能だと思いますのでよろしくお願いします。

では次に二つ目の案件の「提言と今年度の取組について」事務局より説明をお願いします。

事務局 (資料3～9を使って事務局説明。)

岡田会長 昨年度本会で提起した提言が、4月26日付で文書化されました。提言の1と2は、学校に関わることで、ぜひ行政主導で進めていただき、コーディネーターからも声を上げて、実現化を図っていききたいものだ。3は、保護者の理解に関わることで、PTAには、協力も頂いている。負担感を増すのではなく、こんな子どもの成長がありましたよとプラス面を示しながら、理解協力を得たい。4、5では、公民館の巻き込みを図りながら、地域の人的資源をつないでいきたい。1、2はすぐにできるものなのか、現場では大変なことなのか。先生方その辺はどうですか。

瀬古口委員 中学校区によって進み具合、やりやすさは違う。ある程度の基準をこのように示していただくのは効果があることだ。校園長が校園の実態を踏まえて判断できる部分がある。1に関しては、地域担当教員はどの学校も決めていると思うが、事業によっては、担当以外の教員が窓口になる場合もある。本校では、放課後の学習は学習部長だし、職場体験の担当は、2年生の学年主任だ。いろんな教職員との関係ができて、いいことだと思っている。2に関しては、多くの学校では空き教室ができていたので、可能などころも多い。本校では管理職が知らない間に地域の会合が開かれていたりして、有意義に活用していただいている。本年度から冷房も入れさせていただき、より活用していただいている。PTAもコーディネーターとの関係ができていることを喜んでいる。コーディネーターが地域との関係を円滑に結んでいただいている部分がある。また、毎年PTA役員とコーディネーターの合同の会議も実施しており、関係が深い。4では、本年度、防災講演会を実施したが、公民館と地域教育協議会が共同開催した。提言が各中学校区で広がっていくことによって、ベースが定まっていくような気がする。

岡田会長 行政から実現を目指すより、コーディネーターから声を上げ、実現していくことが大事だ。

南出委員 小学校は中学校との連携が大事だ。また、たまたま幼稚園長も兼ねているので、コーディネーター、評議員を巻き込んで進めている。村内総合コーディネーターが熱心に中学校区全体の活動をしておられるのでそれに乗せられる形で進んでいる。前任校の吐山小学校でもコーディネーターが大変熱心な方だったので、スムーズに進んだ。地域の人材も発掘させていただき、PTAも連携してやってくれている。教務主任に校内コーディネーターになってもらい、生徒指導主任も加わり中学校区との連携を図っている。コーディネーターの皆さんが喜んでくれたのが、イオンでも声をかけてくれる子どもが増えてきていることだ。また、放課後子ども教室も昨年からはスタートしたが、コーディネーターの延べ人数も、今年の30人から100人ぐらいに増えている。本校は連合自治会長がいない校区なので、防災・防犯への対応が心配だ。2学期以降も校区の登美北セミナーなどを中心に、連携を深めていきたい。

宮本委員 幼小中と連携しながら進めている。幼稚園のコーディネーターが小学校と同じ方なので、また、クラス園児数も多いので、主任を中心に連携を取りながら進めている。一方、幼稚園では、小規模なところも多いので、職員が事業の内容をしっかりと理解していないと進んでいかない。また、空き教室はほとんどないので、子どもたちが帰った後の部屋等を利用している。

岡田会長 PTAとしてはどうか。

畑中委員 地域教育協議会とPTA、コーディネーターとPTAの連携は単位PTAによっていろいろな実態があるが、アンケートでは、課題のパーセンテージは下がってきており、保護者の理解度は上がってきているように思う。また、コーディネーターにはPTA活動経験者も多いので、保護者の気持ちもわかりながら活動いただいている。本来家庭・保護者がしっかりと責任を持つべきことも多い。例えば、登下校時の態度が悪いと、中学校に苦情が行くことが多いが、本来保護者が対応すべきことだ。この事業を通して、学校・保護者が本来すべきことの理解を深めていきたい。そういった意味では、先ほどから出ている広報も大切だ。

岡田会長 一つ、提言をもとに、コーディネーターの活動を支援していくという方向性が決まったが、他に市の事業を進めていく上で何かヒントになるようなことがあればお願いしたい。本委員会は年3回ぐらい実施だと思うが、次回は11月ぐらいか。

事務局 12月ぐらいを予定している。

岡田会長 年3回の考える委員会で引っ張っていくというのではなく、コーディネーターが実働部隊という形で成果を出していきたい。公民館としてはどうか。

佐野副会長 アンケートの記述の回答にあるように、公民館事業・活動との連携が深まった。年度末の公民館職員の、本事業の活動の研修をきっかけに、一歩二歩という形で、連携が進んでいる。協議会と公民館の共催事業は昨年度ゼロであったが、本年度3つほど上がっている。一歩踏み出せているという印象だ。地域の教育力の向上、子どもたちの成長に成果としてつながるよう、公民館としても活動していきたい。

岡田会長 子どもたちがこれだけ変わったよ、こんなふうによくなっているよ、という声があち

こちで話し合われ、成果が確認できるようになると、ますます関わっている方々のモチベーションも上がりますので、だいぶ下地はできているようなので、ぜひそんな方向に向けてさらに進めていきたい。今日は大変いいご意見をいただきまして、この会あるいは、奈良市が向かっていく方向も見えてきたような気がします。どうも本日はありがとうございました。

6 その他

事務局 岡田会長、佐野副会長どうもありがとうございました。委員の皆様、本日は長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。次回は12月ごろの開催を予定しております。その折は、事前にご案内いたしますので、ご出席いただきますようよろしくお願いいたします。

○ 閉会

- ※ 資料
- ① 平成25年度奈良市の地域教育を考える委員会委員名簿
 - ② 平成24年度奈良市地域教育推進事業に関するアンケート調査（報告書）
 - ③ 奈良市地域教育推進事業へ発展的な取組に向けた提言
 - ④ 平成25年度 研修一覧（実施予定）
 - ⑤ 平成25年度奈良市地域教育推進事業
 - ⑥ 平成25年度地域で決める学校予算事業 事業内容一覧
 - ⑦ 平成24年度放課後子ども教室推進事業活動実績
 - ⑧ 平成25年度放課後子ども教室推進事業活動計画
 - ⑨ 平成24年度地域で決める学校予算事業 概要版

平成 年 月 日

署名委員

署名委員
